

7月28日(水曜日)

ドル/円

## クロス円の急激な動きにも要注意

### 27日(火)の主な推移

チャート: 30分足 27日(火)朝6時 ~ 28日(水)朝6時

ダウ平均株価

10537.69ドル  
(+12.26ドル)

米長期金利  
(10年債利回り)

3.0503%  
(+0.0543%)

NY原油先物

77.50ドル  
(-1.48ドル)



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、( )は前日比  
出所: 外為どっとコム

- ① 欧州株やダウ平均株価先物が上昇する中でリスクを積極的に取る機運が高まり、円が全面的に下落。米長期金利の上昇なども相まって、ドル/円ではドル高・円安が進んだ。
- ② 22時に発表された米5月S & P/ケース・シラー住宅価格指数は前月比+0.47%(市場予想: +0.20%)、前年比+4.61%(同: +3.85%)と市場予想を大幅に上回ったことから、円に対するドルの上昇に拍車が掛かり、ドル/円は一時87.74円まで上昇した。
- ③ 23時に発表された米経済指標において、米7月消費者信頼感指数は50.4と市場予想(51.0)より弱い結果だったものの、米7月リッチモンド連銀景況指数が16と市場予想(12)より強い結果だったことを好感して、ダウ平均株価や米長期金利が上昇すると、ドル/円は上値を伸ばす展開。日本時間28日早朝に87.98円と2週間近くぶりの高値をつけたが、88.00円手前では上値の重さが鮮明だった。

### 上昇要因(ドル高・円安)

- ・米国経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加緩和観測
- ・日本の財政赤字への懸念

### 下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米国経済の回復の鈍化
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり

### 本日の見通し

本日の予想レンジ: 87.20- 88.50円

ドル/円は昨日27日、欧米の株高や米国の国債利回りの上昇などを背景にドル高・円安が進行した。しかし、昨日の米国市場では株は上値の重さが鮮明で、米長期金利や2年債利回りなども、米国の超低金利政策が長期化するとの見方が強い中で上昇しつづける事は考えにくい。また、30日(金)に米第2四半期国内総生産(GDP)・速報値の発表を意識して手控える向きもそろそろ出てきそうなことを考慮すると、ドル/円の上値は限定的と考えられる。

とはいえ、主要国の経済指標発表時には急に相場が動くこともあり得るため、注意したい。本日は下記の米国経済イベントの他、豪州の第2四半期消費者物価指数(10時30分発表)、ドイツの7月消費者物価指数(発表時間未定)の発表が予定されている。これらの結果を受けてクロス円(ユーロ/円、豪ドル/円など)が大きく動けば、ドル/円も連れて動く可能性もあり、併せて注目したいところだ。(ジェルベズ)

### 本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
7/28(水)	21:30	○	(米) 6月耐久財受注 [前月比]	-1.1%	+1.0%
	21:30	○	(米) 6月耐久財受注 [前月比: 除輸送用機器]	+0.9%	+0.4%
	26:00	○	(米) 5年債入札(370億ドル)	—	—

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com